

万博会場予定地・夢洲のいま

昨日 14 日午後、「新聞うずみ火」スタッフの皆さんと夢洲へ視察に行った。まずは、地上 252m55 階の咲洲展望台から夢洲を上から眺めた。運よく晴天に恵まれ、夢洲の全景だけでなく、遠くは淡路島や明石海峡大橋も見ることができた。

夢洲前方は大阪港最大のコンテナターミナル、奥に造成中の万博会場予定地、IR カジノ候補地が並ぶ。万博会場に設置予定の「大屋根」、パビリオンなどを想像しながら、複雑な思いで展望台をあとにした。



そのあとタクシーで夢洲に向かった。夢咲トンネルを抜けると、そこは夢洲だ。夢洲「上陸」は 2 回目だ。2 年半前、大阪自然環境保全協会の皆さんの案内で視察することができた。巨大ダンプを目にしたが、土曜日だったのでコンテナ関係の車は少なかった。まだ雑草も残っており、湿地には数多くの鳥を見ることができた。



今回、久しぶりに夢洲上陸で感じたのは、景色が一変していたことだ。巨大クレーンが林立し、各種工事が進行している。のどかな湿地や雑草は見当たらず、殺伐とした工事現場が広がっていた。地下鉄延伸で設置される新駅の予定地あたりは、基準値を上回る有害物質が検出されたというが、工事を続けて大丈夫なのだろうか。



前回と違い平日の午後に夢洲に上陸したので、巨大なコンテナ車などがスピードをあげて走っていた。橋の近くは長い渋滞ができていた。タクシーの運転手に聞くと、月曜午前は渋滞がもっと酷いという。夢洲は「負の遺産」などでなく、大阪市民のゴミ処分地として活用されてきた。そして現在も、大阪港最大のコンテナターミナルとして活動している。夢洲は生きているのだ。万博関係の本格的な工事期間、万博開催中、撤去作業期間はどうなるのだろうか。巨大コンテナ船は、いったん神戸港などに移動すると、二度と戻らないという。これこそ大阪経済に深刻な打撃を与えるのではないか。

残念ながら、万博会場近くには近づけなかったが、夢洲の変ぼうぶりを実感できた。夢洲万博の環境影響評価は、準備書から評価書の段階へと進みつつある。本来、評価書が出てから工事が開始されるはずだが、基盤整備や地下鉄延伸として、夢洲が大改造されている現実に疑問を感じた。夢舞大橋から舞洲駐車場予定地を通過して、咲洲に戻った。

(2021 年 12 月 15 日)